

資料

母親の社会的孤立と児童虐待リスクに関する横断研究：
母親のソーシャルサポートと孤独感からチョウ シ キ ソエジマ タカフミ
張 詩琪* 副島 堯史*

目的 本研究では、今後の子育て支援、児童虐待予防対策への示唆を得るために、ソーシャルサポートと孤独感から母親の社会的孤立を測定し、母親の社会的孤立と児童虐待リスクの関連を明らかにすることを目的とした。

方法 2023年8月～9月に、近畿地方のA市、B市、C市で行われる乳幼児健診（計12回）に来所した母親365人を対象として、無記名自記式質問紙を実施した。質問項目について、「Duke Social Support Index 日本語版」,「日本語版 UCLA 孤独感尺度（第3版）」,「育児ストレス ショートフォーム実用版」を使用した。児童虐待リスクは、先行研究を基に著者が作成した11項目の尺度を用いた。また、先行研究で検討された母親と子どもの基本属性を尋ねた。分析は、まず、児童虐待リスクを従属変数として、母親および子どもの基本属性、ソーシャルサポート、孤独感、育児ストレスを独立変数として、階層的重回帰分析を行った。次に、間接効果の可能性がある変数を含めて、構造方程式モデリング（SEM）により、母親の社会的孤立と児童虐待リスクの関連モデルを検証した。

結果 著者の研究機関に返送した91人（回収率24.9%）の調査票を分析対象とした。児童虐待リスクを従属変数とした階層的重回帰分析の結果、「子どもの特徴に関するストレス」の得点が高いほど、母親の児童虐待リスクが高かった。また、SEMにより、家族または友人からのソーシャルサポートが少ないほど、母親の孤独感が強くなり、同時に育児ストレスを抱え、児童虐待リスクが高かった。

結論 本研究により、母親の社会的孤立は高い育児ストレスや児童虐待リスクを招く恐れがあることを明らかにした。今後、母親へのソーシャルサポートの充実、母親の孤独感の解消、児童虐待に関する専門性の高い介入プログラムが求められると考える。

Key words : 社会的孤立, 児童虐待, 育児ストレス, ソーシャルサポート, 孤独感

日本公衆衛生雑誌 2025; 72(7): 468-476. doi:10.11236/jph.24-089

I 緒 言

日本では、核家族化、地域におけるつながりの希薄化、父親の育児参加の乏しさ¹⁾によって、母親の子育ての孤立や困難を招く恐れがある²⁾。さらに、コロナ禍で、母親は子育ての孤独感と寂しさを抱え、母親の育児不安と児童虐待リスクが深刻化している^{3,4)}。

Belsky は生態学的システム理論をもとに、「児童虐待の生態学的統合モデル」を構築した。このモデ

ルは児童虐待を（1）個人または個体発生要因、（2）マイクロシステム（家庭）、（3）エクソシステム（コミュニティ・環境）、（4）マクロシステム（文化）という4つのレベルで相互作用するリスク因子と保護因子をシステムの中に位置づけている⁵⁾。「児童虐待の生態学的統合モデル」は児童虐待の規定要因に関する膨大な文献を整理し、エクソシステムにおける児童虐待のリスク因子として、ソーシャルサポートからの孤立が挙げられている⁶⁾。ソーシャルサポートは家族機能の維持・向上に寄与し、親の心身の症状を軽減させ⁷⁾、母親が受け取ったソーシャルサポートが少ないことは、母親の児童虐待リスクが高いことと関連している^{8,9)}。日本人の母親のソーシャルサポートを評価した結果、家族、友人、

* 神戸大学大学院保健学研究科看護学領域
責任著者連絡先：〒654-0142 神戸市須磨区友が丘
7-10-2
神戸大学大学院保健学研究科看護学領域 張 詩琪
E-mail: zhangshiqisusan@gmail.com

重要な他者の下位尺度のスコアが低いほど、児童虐待リスクが高かった¹⁰⁾。また、アメリカにおけるアジア系移民の親を対象とした研究では、ソーシャルサポートと児童虐待リスクの間に有意な関連が見られたが、育児ストレスを投入すると、その関連は有意ではなくなり、ソーシャルサポートと児童虐待リスクの間に、育児ストレスによる媒介効果が示唆された¹¹⁾。Maguire-Jack & Wang は構造方程式モデリングを用いて、ソーシャルサポートは子育てストレスを軽減し、ひいてはネグレクトのリスクを減らすことを報告した。子育てストレスによる媒介効果を確認したところ、ソーシャルサポートとネグレクトとの直接的な関係は認められなかった¹²⁾。

児童虐待に関する文献で用いられる社会的孤立という概念は、母親の承認欲求が満たされた状態や、社会との安定的・肯定的なつながりから生じる社会への帰属意識に関連することが指摘されている¹³⁾。Coohey は1960年から1990年までの、社会的孤立と児童虐待に関する研究をレビューし、社会的孤立は単なる一つの要因ではなく、知覚されたサポートやソーシャルネットワークに関連する広範な変数の集合体であると述べた⁸⁾。身体的虐待、性的虐待、ネグレクトを行う養育者グループは、児童虐待を行わないグループより、孤独感を有していた¹⁴⁾。日本においては、実の父母や友人からのソーシャルサポートが低いほど、母親の孤独感が強く¹⁵⁾、母親の孤独感は育児負担感と正の相関があった^{16,17)} ことから、孤独感はソーシャルサポートと育児ストレスを媒介する可能性が考えられる。したがって、本研究における社会的孤立は静態的な概念ではなく、ソーシャルサポートの乏しさによって、強い孤独感に襲われるという動的プロセスと捉えられる。客観的な孤立状態から主観的な孤独感に至るプロセスに介入することで、母親の社会的孤立をより効果的に防ぐことが可能ではないだろうか。

しかし、先行研究において、孤独感が母親のソーシャルサポートと育児ストレスの間を媒介するのか、さらに孤独感が育児ストレスを通して児童虐待リスクに影響するのかは検討されていない。日本における母親のソーシャルサポート、孤独感、育児ストレスが児童虐待リスクに至るメカニズムを明らかにすることで、母親の社会的孤立を防ぐための子育て支援や児童虐待の予防対策に関する示唆を得られると考える。そこで、本研究は、ソーシャルサポートと孤独感から母親の社会的孤立を測定し、日本における母親の社会的孤立と児童虐待リスクの関連を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ 方 法

1. 調査対象および調査方法

2023年 8 月～9 月に、近畿地方の A, B, C 市で行われる乳幼児健診（4 か月児・10 か月児・1 歳 6 か月児・3 歳児、計12回）に来所した母親365人を対象として、無記名自記式質問紙を配布した。対象者は、回答した質問紙を研究者へ直接返送した。

2. 調査項目

1) 基本属性

母親の属性について、年齢、就労形態（正社員を基準）、配偶者の就労形態、学歴（高校を 1, 専門学校・短期大学を 2, 四年制大学を 3, 大学院を 4）、配偶者の学歴、婚姻状況（既婚を基準）、同居人数、居住状況（持ち家を基準）、世帯年収を尋ねた。子どもの属性について、子どもの数、第一子の年齢と性別（男性を基準）、末子の保育施設の利用（利用ありを基準）を尋ねた。

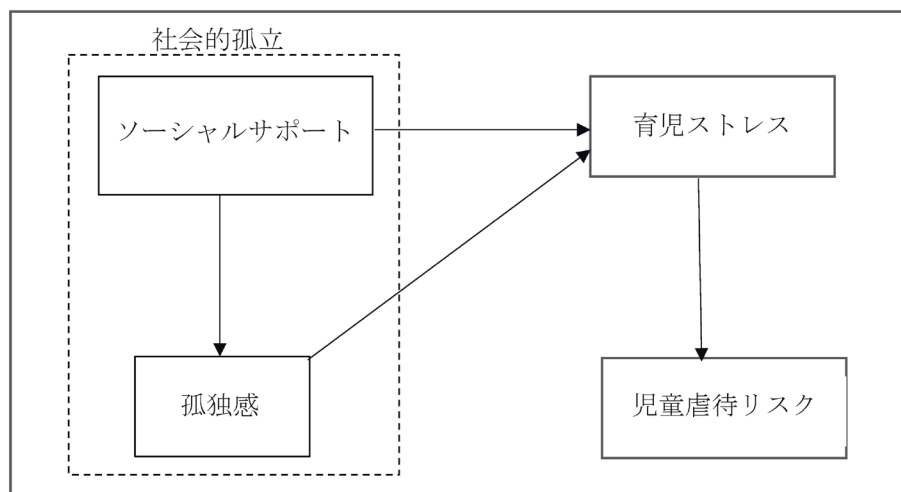
2) 児童虐待リスク

児童虐待リスクに関する質問項目は、徳永¹⁸⁾、三徳¹⁹⁾、岡田²⁰⁾ の研究で児童虐待リスクを測定するために共通して使用された11項目を抽出した。「お尻をたたく」、「大声でしかる」、「子どもをおいて出かける」などの子どもに対する育児行動について、「まったくしていない（1点）」、「ほとんどしていない（2点）」、「ときどきしている（3点）」、「よくしている（4点）」、「いつもしている（5点）」の5件法で回答してもらった。各項目の得点を合計して得点を算出した。得点範囲は11～55点であり、得点が高いほど、児童虐待リスクが高いことを示す。本研究における Cronbach's α は0.72であった。

3) 育児ストレス

育児ストレスを測定するために、育児ストレスショートフォーム実用版（以下 PS-SF 実用版）を用いた。荒木らは、Abidin によって開発された Parenting Stress Index と日本版 Parenting Stress Index から PS-SF 実用版を作成し、尺度の信頼性と妥当性を確認した²¹⁾。PS-SF 実用版は子どもの特性や親子の相性についての「子どもの特徴に関するストレス（項目例：私の子どもは、とても不機嫌で泣きやすいと思う）」と、育児の負担感や夫との関係についての「親自身に関するストレス（項目例：私は、子どもを産んでから、やりたいことがほとんどできないと感じてしまう）」から構成され、5件法で尋ねた。子どもの特徴に関するストレスの下位尺度得点の範囲は7～35点、親自身に関するストレスの下位尺度得点の範囲は7～35点であり、下位尺度得点が高いほど、それぞれの育児ストレスが強いことを示

図1 母親の社会的孤立と児童虐待リスクの仮説モデル



す。本研究における親自身に関するストレスの Cronbach's α は0.78であり、子どもの特徴に関するストレスの Cronbach's α は0.80であった。

4) ソーシャルサポート

ソーシャルサポートは、Duke Social Support Index 日本語版 (DSSI-J)²²⁾ を用いて、測定した。DSSI は Duke 大学の Geroge により開発され、家族または友人からサポートを受ける頻度、家族または友人からのサポートに対する主観的な評価を尋ねるものである。サポートに対する主観的な評価とサポートを受ける頻度は5件法で尋ねた。確認的因子分析の結果、ソーシャルサポートに関する尺度は「情緒的支援」、「手段的支援」、「評価的支援」からなる13項目の因子モデルが得られた (AGFI = 0.979, GFI = 0.985, CFI = 1.000, RMSEA = 0.000)。手段的支援は4～20点、情緒的支援は6～30点、評価的支援は3～15点であり、下位尺度得点が高いほど、実際に受け取ったサポートや知覚されたサポートが多いことを示す。本研究における Cronbach's α は、情緒的支援で0.80、手段的支援で0.85、評価的支援で0.83であった。

5) 孤独感

日本語版 UCLA 孤独感尺度 (第3版) を用いた。この尺度は20項目で構成され、「常にある (4点)」、「ときどきある (3点)」、「ほとんどない (2点)」、「決してない (1点)」の4件法で測定した。日本語版尺度は1因子構造となり、高齢者を対象とした調査で信頼性と妥当性を確認されている²³⁾。合計得点が高いほど孤独感が強いことを示す。本研究における Cronbach's α は0.94であった。

3. 分析方法

本研究は、ソーシャルサポートと児童虐待リスク

の間に育児ストレスの媒介効果が存在すること¹¹⁾、Maguire-Jack & Wang¹²⁾ のソーシャルサポートとネグレクトについての構造モデル、日本における母親の孤独感に関する馬場¹⁵⁾、佐藤¹⁶⁾ の研究を踏まえ、孤独感はソーシャルサポートと育児ストレスを媒介する可能性があると考え、母親のソーシャルサポートは孤独感と育児ストレスを経由し、母親の育児行動に影響を及ぼすという仮説モデルを設定した (図1)。

まず、ソーシャルサポートや孤独感と児童虐待リスクの関連に対する育児ストレスの間接効果を検討するために、児童虐待リスクを従属変数として、階層的重回帰分析を行った。モデル1は母親および子どもの基本属性を独立変数として投入した。モデル2はモデル1に、母親の社会的孤立に関する変数、「情緒的支援」、「手段的支援」、「評価的支援」の下位尺度得点、孤独感の合計得点を追加で投入した。モデル3は「親自身に関するストレス」と「子どもの特徴に関するストレス」の下位尺度得点をそれぞれ追加で投入した。

次に、母親の社会的孤立と児童虐待リスクの関連を検討するために、構造方程式モデリング (SEM) により仮説モデルを検証した。本研究におけるデータの分布を考慮し、「頑健性のある最尤法」を指定した。また、間接効果の検定は、サンプルサイズの大きさを考慮した上で、データの正規性を仮定せずに検定するブートストラップ法 (サンプリング回数2,000回) により実施した。モデルの適合度は、CMIN/df, AGFI, GFI, RMSEA, CFI より評価された。

解析には、R 4.3.1を使用し、有意水準は両側5%とした。

4. 倫理的配慮

本研究は神戸大学大学院人間発達環境学研究科における人を直接の対象とする研究に関する研究倫理審査委員会の審査を経て、神戸大学大学院人間発達環境学研究科長より承認を得て行われた（2023年 5 月31日承認，受付番号645- 2）。

Ⅲ 報 告 内 容

1. 対象者の概要

調査票は365票を配布し，返送があった91人の調査票を分析対象とした（回収率24.9%）。対象者の概要を表 1 に示す。母の平均年齢は35.3 ± 3.7歳で，約 9 割が核家族であった。母親の就労形態は約 5 割が正社員，専業主婦など働いていない人が約 3 割であった。世帯年収は約 5 割の母親が「800万円以上」と答え，子どもの数は 2 人であった世帯が約 5 割であった。本研究における児童虐待リスクの得点は，11点～27点で，平均は17.2 ± 3.9点であり，得点が低い方に偏った得点分布であった。

2. 児童虐待リスクを従属変数とした階層的重回帰分析

階層的重回帰分析の結果を表 2 に示す。多重共線性検定の結果，すべての説明変数の VIF 統計量が 1～5 の値域に収まっており，多重共線性の可能性は低いことが確認された。

モデル 1 において，母親および子どもの基本属性に関して，子どもの数が多いほど（ $\beta = 0.355$ ， $P = 0.043$ ），母親の児童虐待リスクは高かった。また，末子を自宅で育児を行う母親に比べて，保育施設を利用している母親は，児童虐待リスクが高かった（ $\beta = 0.337$ ， $P = 0.012$ ）。モデル 1 は，母親による児童虐待リスクの16.8% を説明した。

モデル 2 において，「情緒的支援」，「手段的支援」，「評価的支援」の得点と児童虐待リスクとの有意な関連が認められなかったが，孤独感の得点が高いほど，母親の児童虐待リスクが高い傾向が見られた（ $\beta = 0.320$ ， $P = 0.082$ ）。モデル 2 は母親による児童虐待リスクの22.3% を説明した。

モデル 3 において，「子どもの特徴に関するストレス」の得点が高いほど，母親の児童虐待リスクが高かった（ $\beta = 0.448$ ， $P < 0.001$ ）。また，子どもの数が多いほど（ $\beta = 0.441$ ， $P = 0.016$ ），保育施設を利用しているほど（ $\beta = 0.274$ ， $P = 0.041$ ），児童虐待リスクが高かった。モデル 3 は，母親による児童虐待リスクの38.9% を説明した。

3. SEM による仮説モデルの検証

母親の社会的孤立と児童虐待リスクに関する SEM モデルを図 2 に示す。分析モデルの適合について

は，CMIN/df = 2.283，AGFI = 0.994，GFI = 0.997，CFI = 0.904，RMSEA = 0.119であった。RMSEA はサンプルサイズが少ない場合にはバイアスを生じ，正しいモデルを棄却する確率が高くなる²⁴⁾。また，AGFI と GFI が0.90を大きく上回っているため，分析モデルが許容範囲にあると判断している。「育児ストレス」から児童虐待リスクへの正の影響（ $\beta = 0.498$ ， $P = 0.038$ ），孤独感から「育児ストレス」への正の影響（ $\beta = 0.563$ ， $P = 0.001$ ），「ソーシャルサポート」から孤独感への負の影響（ $\beta = -0.580$ ， $P < 0.001$ ）が認められた。しかし，「ソーシャルサ

表 1 母親および子どもの基本属性

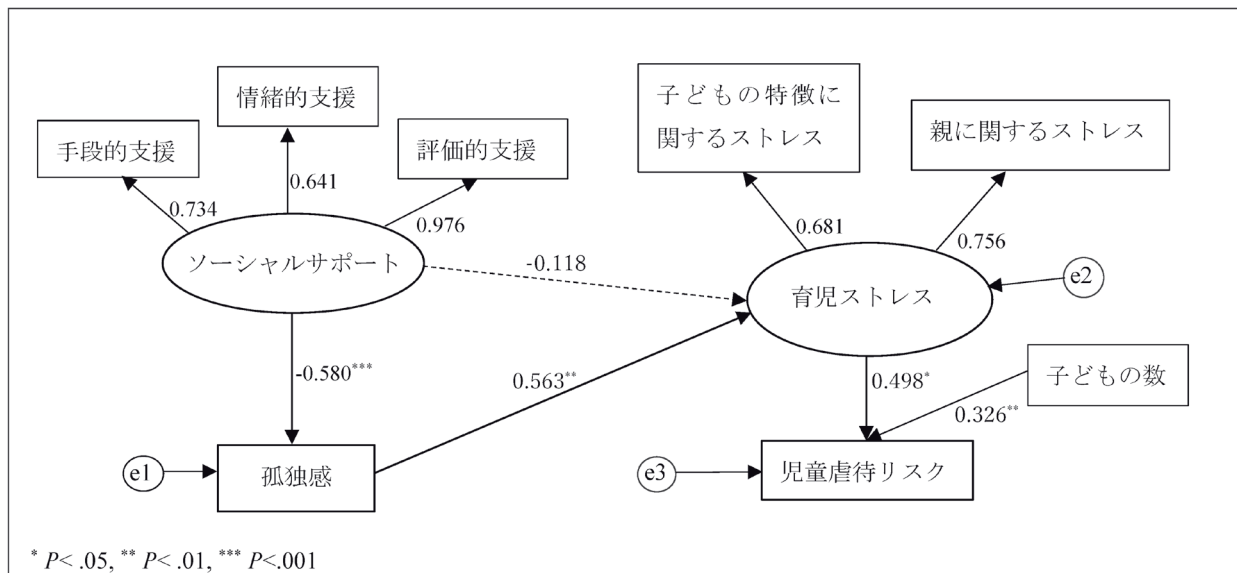
N = 91	人数（%）
回答者（母親）の属性	
年齢	
25～29歳	6(6.6)
30～34歳	28(30.8)
35～39歳	42(46.2)
40～44歳	12(13.2)
就労形態	
正社員	45(49.5)
非正規雇用	13(14.3)
自営業主・家族従業員	6(6.6)
働いていない（専業主婦・学生など）	27(29.7)
学歴	
高校まで	10(11.0)
短大・専門学校，大卒以上	81(89.0)
婚姻状況	
既婚	88(96.7)
未婚	2(2.2)
世帯の属性	
家族構成	
核家族	83(91.2)
拡大家族	7(7.7)
居住状況	
持ち家	53(58.2)
民間の賃貸住宅など	37(40.7)
世帯年収	
400万未満	8(8.8)
400～800万未満	35(38.5)
800万以上	44(48.4)
子の属性	
子どもの数	
1 人	37(40.7)
2 人	45(49.5)
3 人	9(9.9)
保育施設の利用（末子）	
あり	37(40.7)

表2 児童虐待リスクについての階層的重回帰分析の結果

	モデル1		モデル2		モデル3	
	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.
母親の年齢	0.114	0.155	0.093	0.159	0.095	0.148
母親の仕事：契約・アルバイト・派遣	0.003	1.507	0.018	1.732	0.019	1.538
母親の仕事：自営業主	-0.100	2.060	-0.122	2.132	-0.130	1.903
母親の仕事：働いていない	0.120	1.221	0.205	1.377	0.145	1.231
配偶者の仕事：アルバイト	0.028	1.342	-0.036	1.548	-0.056	1.375
配偶者の仕事：自営業主	0.199.	4.003	0.223.	4.264	0.171	3.933
母親の学歴	-0.156	0.640	-0.183	0.710	-0.226	0.646
配偶者の学歴	0.148	0.480	0.080	0.536	-0.005	0.494
婚姻状況：未婚	0.080	4.570	0.133	5.039	0.011	4.576
居住状況：民間の賃貸住宅	0.010	1.067	-0.012	1.146	-0.001	1.027
居住状況：給与住宅	0.179	2.475	0.090	2.700	0.141	2.416
居住状況：賃貸住宅	-0.092	2.956	-0.110	3.009	-0.089	2.676
居住状況：その他	0.166	2.785	0.176	2.910	0.139	2.696
世帯年収	-0.005	0.390	-0.055	0.421	0.021	0.380
子どもの数	0.355*	1.036	0.528**	1.182	0.441*	1.064
第一子の性別	0.159	0.894	0.164	0.925	0.191.	0.824
第一子の年齢	0.082	0.019	0.016	0.021	0.050	0.019
保育施設の利用	0.337*	1.027	0.370*	1.114	0.274*	1.028
情緒的支援			0.046	0.220	0.056	0.202
手段的支援			0.079	0.246	0.161	0.224
評価的支援			-0.128	0.464	-0.193	0.414
孤独感			0.320.	0.070	0.167	0.068
親自身に関するストレス					-0.029	0.119
子どもに関するストレス					0.448***	0.094
定数	-0.017	6.203	0.029	8.878	0.049	7.895
R^2	0.365		0.464		0.595	
調整済み R^2	0.168		0.223		0.389	
自由度	58		49		47	
n	77		72		72	

・ $P < 0.1$, * $P < .05$, ** $P < .01$, *** $P < .001$

図2 母親の社会的孤立と児童虐待リスクに関する SEM モデル



ポート」と「育児ストレス」の有意な関連が認められなかった ($\beta = -0.118$, $P = 0.372$)。

間接効果を検討した結果、孤独感から「育児ストレス」を経て、児童虐待リスクに影響を及ぼす有意な間接効果 ($\beta = 0.404$, $P = 0.032$) が認められた。また、「ソーシャルサポート」から孤独感を経た「育児ストレス」への間接効果 ($\beta = -0.407$, $P < 0.001$) があった。つまり、母親の孤独感が強いと、育児ストレスが高くなり、児童虐待のリスクが高まった。ソーシャルサポートは、孤独感を軽減させ、間接的に育児ストレスを緩和した。

Ⅳ 考 察

本研究は、ソーシャルサポートと孤独感から母親の社会的孤立を測定し、日本における母親の社会的孤立は高い育児ストレスや児童虐待リスクを招く恐れがあることを明らかにした。児童虐待リスクを従属変数とした階層的重回帰分析の結果、育児ストレスの下位尺度である「子どもの特徴に関するストレス」の得点が高いほど、母親の児童虐待リスクが高くなり、モデル3の調整済み R^2 はモデル2より大幅に増加したため、「子どもの特徴に関するストレス」は母親の児童虐待リスクへの重要な関連要因であると推測される。要支援児童とその母親の特徴に関する研究で、児童虐待の高リスク群は低リスク群に比して、乳幼児健診の時点で「育児困難がある」と回答した者が有意に高かった²⁵⁾。また、育児不安が増すにつれて虐待の傾向が有意に高かったと示す研究もある¹⁹⁾。

分析の結果から、育児ストレスにおいては、母親の子育てに対する負担感や夫との関係のような親自身に関するストレスより、子ども特性や親子の相性と育児行動の方がより関連が強いものと考えられる。今後は育児ストレスを解消するための子育て支援、児童虐待予防対策を講じるために、「子どもの特徴に関するストレス」の規定要因の検討をさらに進める必要がある。子どもの特性を受け入れにくい場合や親子の相性が悪い場合に、子どもの発達、親子関係、児童虐待に関する専門性の高い介入プログラムが求められる。

先行研究においては、母親のソーシャルサポートと育児ストレスや母親の精神健康との関連を検証するものは数多く見受けられている^{26,27)}。SEMによる仮説モデルを検証した結果、「育児ストレス」と「ソーシャルサポート」の直接的な関係がないこと、「ソーシャルサポート」の乏しさから影響される「孤独感」が、媒介となって、「育児ストレス」に作用するという間接的な関係が認められた。本研

究の知見は、ソーシャルサポートと育児ストレスに関する研究における新たな知見であり、本研究の独自性とも考えられる。さらに、「ソーシャルサポート」の乏しさによって、強い孤独感に襲われる母親は社会的孤立に陥り、高い育児ストレスや児童虐待リスクを招く恐れがあることが示唆された。そこで、自己肯定感を高める心理的支援、コミュニケーション技術を鍛えるソーシャルスキルトレーニングなど母親の孤独感を解消するための子育て支援、児童虐待予防対策が求められる。

児童虐待リスクに関わる母親および子どもの基本属性について、子どもの数が多いほど、母親の児童虐待リスクが高いという結果は先行研究の研究と一致している²⁸⁾。複数の子どもを育てる場合、子育てに関わる費用が増加し、母親は体力的にも精神的にも厳しくなり、育児で疲れると感じる可能性がある。また、末子の保育施設の利用について、先行研究では、子どもと離れて自由になれる時間がない者に虐待認識のある母親の割合が有意に高かったが、本研究の結果と一致していなかった²⁹⁾。その理由は、末子は保育施設を利用していることが子どもの数、母親の就労形態など関連していると考えられ、今後のさらなる検討が必要である。

本研究の限界として、まず、調査票の配布数は365票、回収数は91票（回収率24.9%）であり、回収率が低く、サンプルサイズがやや小さかった。また、調査の結果は全国状況を反映されたものとは言い難い。本研究における多くの回答者は経済面で比較的ゆとりがあると推測され、シングルマザーや生活困難を抱える母親の状況を把握できていないと考えられる。次に、本研究では母親のソーシャルサポートと孤独感から社会的孤立を測定したため、母親の主観から受けた影響が大きい。今後は、実際に受け取ったサポートに関する質問項目を追加し、マルチレベル分析を考慮すべきである。最後に、質問紙から得られる情報は、実際の虐待行為との間に乖離が生じる可能性がある。また、本研究は横断調査であり、母親の社会的孤立と育児ストレス、児童虐待リスクの因果関係を検証することができないため、今後は縦断調査を行う必要がある。

Ⅴ 結 語

子どもの数が多い場合、「子どもの特徴に関するストレス」が高い場合、母親による児童虐待リスクが高い。さらに、ソーシャルサポートの乏しさによって、強い孤独感に襲われる社会的孤立は、進行するプロセスであり、高い育児ストレスや児童虐待リスクを招く恐れがあることが示唆された。本研究

から、児童虐待に関する専門性の高い介入プログラム、母親の孤独感を解消するための子育て支援、児童虐待の予防対策が求められる。

本研究は神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士前期課程の学位論文の内容に基づき、作成したものであり、指導教員である神戸大学大学院人間発達環境学研究科中谷奈津子先生に深く感謝申し上げます。本研究における開示すべき COI 状態はありません。

(受付 2024. 8. 6)
(採用 2024.11.29)
(J-STAGE 早期公開 2025. 3. 5)

文 献

- 1) 住田正樹, 中田周作. 父親の育児態度をと母親の育児不安. 九州大学大学院教育学研究紀要 1999; 219-238.
- 2) Yamazaki S, Akiyama Y, Shinohara R, et al. Social isolation among mothers caring for Infants in Japan: findings from the Nationwide Survey of healthy parents and children 21. *Maternal and Child Health Journal* 2022; 26: 1549-1558.
- 3) Baiden P, LaBrenz CA, Findley E. Social distancing and anxiety among female caregivers of children ages zero-to-five during coronavirus disease (COVID-19) lockdown in the United States. *Journal of Affective Disorders Reports* 2021; 5: 1-7.
- 4) Lee SJ, Ward KP, Lee JY, et al. Parental social isolation and child maltreatment risk during the COVID-19 pandemic. *Journal of Family Violence* 2022; 37: 813-824.
- 5) Belsky J. Child maltreatment: an ecological integration. *American Psychologist* 1980; 35: 320-335.
- 6) Garbarino J. The human ecology of child maltreatment: a conceptual model for research. *Journal of Marriage and Family* 1977; 39: 721-735.
- 7) Kang J. Pathways from social support to service use among caregivers at risk of child maltreatment. *Children and Youth Services Review* 2012; 34: 933-939.
- 8) Coohey C. Child maltreatment: testing the social isolation hypothesis. *Child Abuse & Neglect* 1996; 20: 241-254.
- 9) Albarracin D, Repetto MJ, Albarracin M. Social support in child abuse and neglect: support functions, sources, and contexts. *Child Abuse & Neglect* 1997; 21: 607-615.
- 10) Ono M, Honda S. Association between social support and child abuse potential among Japanese mothers. *Children and Youth Services Review* 2017; 73: 88-92.
- 11) Yoon AS, Zhai F, Gao Q, et al. Parenting stress and risk of child maltreatment among Asian immigrant parents: does social support moderate the effects? *Asian American Journal of Psychology* 2023; 14: 28-35.
- 12) Maguire-Jack K, Wang X. Pathways from neighborhood to neglect: the mediating effects of social support and parenting stress. *Children and Youth Services Review* 2016; 66: 28-34.
- 13) Gracia E, Musitu G. Social isolation from communities and child maltreatment: a cross-cultural comparison. *Child Abuse & Neglect* 2003; 27: 153-168.
- 14) Miner JS, Robertson KR. Comparison of physical child abuser, intrafamilial sexual child abusers, and child neglecters. *Journal of Interpersonal Violence* 1990; 5: 37-48.
- 15) 馬場千絵, 村山洋史, 田口敦子, 他. 乳児を持つ母親の孤独感と社会との関連について. *日本公衆衛生雑誌* 2013; 60: 727-737.
- 16) 佐藤美樹, 田高悦子, 有本 梓. 都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因: 乳幼児の年齢集団別の検討. *日本公衆衛生雑誌* 2014; 61: 121-129.
- 17) 大峯花乃子, 関屋伸子, 石岡洋子, 他. 乳児を持つ母親の孤独感に関連する要因. *高知大学看護学会誌* 2020; 14: 3-11.
- 18) 徳永雅子, 大原美和子, 萱間真美, 他. 首都圏一般人口における児童虐待の調査. *厚生指針* 2000; 47: 3-10.
- 19) 三徳和子, 伊藤亜古, 森 隆也, 他. 子ども虐待に関する母親の意識調査. *公衆衛生研究* 2002; 51: 77-83.
- 20) 岡田節子. 母親の子どもへの有害な行為と影響を与える要因に関する実証的研究. *静岡県立大学短期大学部 特別研究報告書* 2003; 39: 1-9.
- 21) 荒木暁子, 兼松百合子, 横沢せい子, 他. 育児ストレスショートフォームの開発に関する研究. *小児保健研究* 2005; 64: 408-416.
- 22) 岩瀬信夫, 池田貴子. Duke Social Support Index 日本語版 (DSSI-J) の開発. *愛知県立看護大学紀要* 2008; 14: 19-27.
- 23) 舩田ゆづり, 田高悦子, 臺 有桂. 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度 (第3版) の開発とその信頼性・妥当性の検討. *日本地域看護学会誌* 2012; 15: 25-32.
- 24) 星野崇広, 岡田謙介, 前田忠彦. 構造方程式モデリングにおける適合度指標とモデル改善について: 展望とシミュレーション研究による新たな知見. *行動計量学* 2005; 32: 209-235.
- 25) 吉岡京子, 鎌倉由起, 神保広子, 他. A 自治体における要支援児童とその母親の特徴の検討: 保健師の判断と組織的検討による児童虐待の可能性の高低に基づく比較. *日本公衆衛生看護学会誌* 2017; 6: 10-18.
- 26) 申 沙羅, 山田和子, 森岡郁晴. 生後2~3か月児

- がいる母親の育児困難感とその関連要因. 日本看護研究学会雑誌 2015; 38: 33–40.
- 27) 藤田大輔, 金岡 緑. 乳幼児を持つ母親の精神的健康度に及ぼすソーシャルサポートの影響. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49: 305–313.
- 28) Kim B, Maguire-Jack K. Community interaction and child maltreatment. *Child Abuse & Neglect* 2015; 41: 146–157.
- 29) 横山美江, 岡崎綾乃, 杉本昌子, 他. 乳児から小学生の子どもをもつ母親の虐待認識についての検討. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 30–39.
-

A cross-sectional study of maternal social isolation and child maltreatment risk: The impact of social support and loneliness among mothers

Shiqi ZHANG* and Takafumi SOEJIMA*

Key words : social isolation, child maltreatment, parenting stress, social support, loneliness

Objective This study examined the association between maternal social isolation and child maltreatment risk by measuring social support and loneliness among mothers.

Methods Anonymous questionnaires were distributed to 365 mothers who underwent health checkups for their infants. The examined parameters were the Japanese version of the Duke Social Support Index, revised University of California, Los Angeles Loneliness Scale (third edition), and Childcare Stress-Short Form. Child maltreatment risk was assessed using an 11-item scale developed by the author, based on previous research. Additionally, the basic attributes of the mothers and infants were collected. Hierarchical multiple regression analyses were conducted with child maltreatment risk as the dependent variable and demographics, social support, loneliness, and parenting stress as independent variables. Structural equation modeling was conducted to examine the hypothetical model, and indirect effects were examined using mediation analysis.

Results This study included 91 questionnaires (response rate; 24.9%) returned to the authors' institutions. Hierarchical multiple regression analyses revealed that "stress-related child characteristics" was a risk factor for child maltreatment by mothers. Mothers who reported lower levels of social support had higher levels of loneliness and parenting stress; consequently, higher levels of child maltreatment risk, indicating that social support was related to child maltreatment risk through loneliness and parenting stress.

Conclusion This study revealed that maternal social isolation can lead to high parenting stress and increased risk of child maltreatment. It is important to increase the level of social support for mothers, alleviate their loneliness, and implement highly specialized intervention programs to prevent child maltreatment.

* Department of Nursing, Graduate School of Health Sciences, Kobe University